

令和2年度後期 学群教育改善計画

学群(学部)名	事業構想学群
学群(学部)長名	中田千彦

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	リモートでの授業実施により、コロナ禍以前の対面(通学)のみの授業実施体制時よりも受講生が増加した選択科目があった
	理由	学生にとって通学が負担になる場面もあり、リモートでの授業が実施されたことにより学生の受講機会の拡充につながり、選択科目としての特質が活かされた。
②	課題	建築士試験受験資格(一級)の再取得が実現し、在校生の一部にも遡って受験資格を得られる単位取得の仕組みが始まったが、対象とならなかった在学生、卒業生が生じたことへの教育的な対応が課題となった。
	理由	現行カリキュラムに移行した際に、建築士試験(二級)からの受験資格に履修単位、科目構成を変更したため、上記の事態が生じたが、法改正に伴い受験資格が大幅に広げられたことへの本学の対応として再取得を実施している。
③	課題	リモートと対面の組み合わせによる演習科目の運用が行われ、在宅での学びと通学による大学の学習環境での学びのそれぞれの優位性を活かし授業運営を行うことに関する技術的な課題が顕在化した。
	理由	図書館やコモンズなどを活用した大学における学習環境の改善を進めていく中で、登校をして学ぶことの意義を再確認しつつ、大学での学び全体に対しての新しい取り組みの必要性が注目されるようになった。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①		漫然と登校を義務付けることを含む教育機会の提供が当然であるというこれまでの認識に対し、多様な学習環境を用意することで、学生自身の学びへの主体性の変化を垣間見る機会となった。教室以外の学習環境における科目の履修が技術的、制度的に大きく進展していく中で、遠隔システムを上手に活用し、その利点を用いて学習効果の向上を試行錯誤することが可能な状況が到来したことで、大学での教育や研究の展開に大きな可能性を見出すことができ、それらを有効に利用することへの高い関心と実行力を備えることで、新時代の教育の可能性を引き寄せることができると考えられる。
	②	建築士法とそれに関連する制度が大きく改正されたことにより、建築士人口の著しい減少に歯止めをかけようとする中、本学は建築士資格取得を希望する卒業生に対して、結果的にその門戸を狭めてしまう制度を取り入れてしまった。他方、社会的にはその逆の流れが志向されている現状において、建築士試験受験資格の獲得に関する確認申請を新たに行い、卒業生の機会の拡充に努めた。今回の改正による機会の拡大から漏れてしまった卒業生、学生に対しては、その状況が不利にならないよう、在学中の指導、卒業後の進路指導も含め丁寧に行っていく必要がある。
③		コロナ禍で学習環境の新しい仕組みづくりに取り組みつつ、新規に獲得した情報技術を活用した教育の展開には大いに期待できる要素があることも実感した。これまでの教育手法に加え、学生や教員の時間的、空間的な制約を解き、学びの可能性を広げる様々な手法を得たことは、これからの教育の展開にとって大変意義深い。他方、その技術を活用しつつ、これまでの教育手法をさらに改善して取り組むべき進め方の存在も重要視されるようになったことから、多様な教育の場面の展開に意欲的に取り組むことの重要性も高まってきたと言える。
	③	

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

災害の科学(土)：昨年度より受講生が増加した。遠隔講義であったため、野外での土壌調査などは実施せず、動画を撮影して紹介した。遠隔講義においても理解度が増すよう講義資料の改善を図った。また、課題レポートは到達度に達するまで受講生とメールでやりとりした。意欲的に取り組んでくれた受講生が多かった。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

遠隔授業のシステム活用のメリットを熟知しつつ、対面での実習や演習における教育効果を再認識しながら、両者の組み合わせによる魅力的な科目運営に取り組んでいく。